

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

「平沼に生き、平沼から輝く子」  
 ○目標をもち、主体的に解決していこうと学び続け、自分を高めようとする子どもを育てます。(知)  
 ○自分や相手を大切にしながら豊かに人とかかわり、しなやかにたくましく自立していく子どもを育てます。(徳)  
 ○望ましい生活習慣や心身の健康を心がけ、生命を大切に子どもを育てます。(体)  
 ○まちと人を愛し、自分にできることを他者と協働して実践する子どもを育てます。(公)  
 ○コミュニケーションを通して多様性を尊重し、持続可能な社会を実現しようとする子どもを育てます。(開)

#### 教育課程全体で育成を目指す資質・能力

	具体化した資質・能力
問題解決力 コミュニケーション力	

#### 中期取組目標

「一人ひとりを大切に みんなのことを大切にする学校創り」  
 ◎学級経営を基盤とした、だれもが安心して豊かな学校生活の実現  
 ・人権教育、児童指導、特別支援教育の充実を図り、一人ひとりの思いを大切に、豊かに学校生活を送れるようにします。  
 ・基本的な生活習慣の定着や、食育の日常化を通して、主体的に自らの生き方を考え、高められるようにします。  
 ◎一人ひとりみんなのことを大切にする学び～「多様な個に応じた個別最適で協働的な学び」の実現  
 ・個に応じた学びの形の充実を図り、学校で学ぶことの意味や楽しさを味わえるような授業づくりを推進します。  
 ・効果的なICT環境の活用や、地域との連携を通して、学びの深まりと広がりを推進します。

### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①「コミュニケーション力」「問題解決力」の育成を目指した授業づくりを教職員全体で取り組むことで、学校全体で授業力の向上を図り、同僚性を高めます。 ②ICTを活用し、指導の工夫改善を図り、自らの学びを選択判断できるような授業づくりを進めます。
担当	授業づくり部

学力向上に関わる本校の状況
□横浜市学力・学習状況調査の結果は、概ね全学年市平均を上回っている。 □特に、「知識・技能」の観点で高い通過率が見られる。 □学習意欲調査では、学習への取り組みについて前向きな子どもが多い。 ■問題解決の見通しをもって主体的に取り組んだり、自分の言葉で考えをまとめ整理する力の向上を図りたい。 ■「地域とのかかわり」をより主体的に取組めるような意識を高める工夫が必要である。

今年度の目標				
□根拠をもとに考え、表現する力の育成。 □学習の見通しをもって主体的に学ぶ力の育成 □相手のことを考えて話したり聴いたりする力の育成。				
目標を実現するための具体的行動プラン				
<table border="1"> <tr> <th>上半期</th> <td>□学習意欲に前向きな児童が育っていることから、児童が探究したい問題解決を実現させられるように、カリキュラム・マネジメントを進めていく。 □問題・課題の設定を丁寧に行うことで、学習への主体性を高めたい。 □考えたことを、知識・生活経験などと関連付けながら、表現できるような学習計画を立てられるように、児童と一生に学習を進められるようにする。 □児童自身が、目標設定し、学習(実行)した後の、振り返りを充実し、自分の成長のメタ認知をする時間の充実を図る。 □地域人材や外部連携事業を活用しながら、本物の事象に触れ、自分にできることを考えながら、社会参画意識を涵養していく。</td> </tr> <tr> <th>下半期</th> <td></td> </tr> </table>	上半期	□学習意欲に前向きな児童が育っていることから、児童が探究したい問題解決を実現させられるように、カリキュラム・マネジメントを進めていく。 □問題・課題の設定を丁寧に行うことで、学習への主体性を高めたい。 □考えたことを、知識・生活経験などと関連付けながら、表現できるような学習計画を立てられるように、児童と一生に学習を進められるようにする。 □児童自身が、目標設定し、学習(実行)した後の、振り返りを充実し、自分の成長のメタ認知をする時間の充実を図る。 □地域人材や外部連携事業を活用しながら、本物の事象に触れ、自分にできることを考えながら、社会参画意識を涵養していく。	下半期	
上半期	□学習意欲に前向きな児童が育っていることから、児童が探究したい問題解決を実現させられるように、カリキュラム・マネジメントを進めていく。 □問題・課題の設定を丁寧に行うことで、学習への主体性を高めたい。 □考えたことを、知識・生活経験などと関連付けながら、表現できるような学習計画を立てられるように、児童と一生に学習を進められるようにする。 □児童自身が、目標設定し、学習(実行)した後の、振り返りを充実し、自分の成長のメタ認知をする時間の充実を図る。 □地域人材や外部連携事業を活用しながら、本物の事象に触れ、自分にできることを考えながら、社会参画意識を涵養していく。			
下半期				

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①「豊かな心の育成推進プラン」に基づき、確かな人権感覚・意識の育成に取り組みます。 ②特別の教科道徳や様々な教育活動を通して、自他を尊重する心情や態度の育成・向上を図ります。 ③様々な交流活動を通して、人との関わり合いを大切に授業づくりに取り組みます。
担当	児童指導部

豊かな心に関わる本校の状況
□子どもたちは、素直で人懐っこい雰囲気がある。 □地域からの協力も多く得られ、子どもたちの学びを見まもり支えていただいている。 □様々な教育活動を通して、主体的に取り組む場面を多く設定し、自分に自信をもって力を発揮できるように取り組み、自己肯定感を高めている。 ■あいさつや人との関りがあまり得意ではない子がいる。あいさつ運動などを通して啓発を継続している。

今年度の目標				
□相手のことを考えて話したり聴いたりする力の育成。 □主体的に人やものと関わり合い学び続ける力の育成。				
目標を実現するための具体的行動プラン				
<table border="1"> <tr> <th>上半期</th> <td>□学校生活全体を通して、かかわりのある人への感謝の気持ちを育てるため、「人」との出会いを大切に学習を位置付けます。 □学級づくりで係活動や当番活動、集会活動を充実させ、自分たちで計画、運営し、みんなを楽しませる活動を経験できるように取り組みを位置付けます。 □「特別の教科 道徳」の充実を図り、子どもたちの豊かな心情を養い、道徳的態度を育成します。 □人権研修会、特別支援教育、国際理解教育などの推進を図り、個に応じた指導、支援の在り方を都度検討します。</td> </tr> <tr> <th>下半期</th> <td></td> </tr> </table>	上半期	□学校生活全体を通して、かかわりのある人への感謝の気持ちを育てるため、「人」との出会いを大切に学習を位置付けます。 □学級づくりで係活動や当番活動、集会活動を充実させ、自分たちで計画、運営し、みんなを楽しませる活動を経験できるように取り組みを位置付けます。 □「特別の教科 道徳」の充実を図り、子どもたちの豊かな心情を養い、道徳的態度を育成します。 □人権研修会、特別支援教育、国際理解教育などの推進を図り、個に応じた指導、支援の在り方を都度検討します。	下半期	
上半期	□学校生活全体を通して、かかわりのある人への感謝の気持ちを育てるため、「人」との出会いを大切に学習を位置付けます。 □学級づくりで係活動や当番活動、集会活動を充実させ、自分たちで計画、運営し、みんなを楽しませる活動を経験できるように取り組みを位置付けます。 □「特別の教科 道徳」の充実を図り、子どもたちの豊かな心情を養い、道徳的態度を育成します。 □人権研修会、特別支援教育、国際理解教育などの推進を図り、個に応じた指導、支援の在り方を都度検討します。			
下半期				

### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①異学年交流を通して、人と人との関わり合いを大切に、体力の維持・向上を図ります。 ②学校保健委員会、委員会活動を通して、健康な体について関心をもつことができますようにします。 ③食育全体計画をもとに全学年で食育を実施し、主体的な食への関わり、食育の日常化を推進します。
担当	異学年食育部

健やかな体に関わる本校の状況
□体育科学習では、自分のめあてに向かって積極的に学習に取り組む子が多い。 □お互いの動きをみあったり、ipadを活用して自分の動きを確認したりして、学びを楽しんだり深めたりする様子が見られる。 ■日常的に運動に慣れ親しんでいる子と、ほとんど運動していない子での体力差が大きい。 □基本的な「走・投・跳」の動きや巧緻性に課題が見られる子がいる。 ■偏食や少食の子が目立ち、バランスの良い食生活の定着や、個別的な相談指導を行った。

今年度の目標				
□主体的に人やものと関わり合い学び続ける力の育成。 □自らの学びを振り返り調整する力の育成。				
目標を実現するための具体的行動プラン				
<table border="1"> <tr> <th>上半期</th> <td>□児童の実態を捉えて、適切な支援の方法(資料・段階に応じた場)を模索し、自身の学びをふり返り、自己の成長を感じられるようにする。 □体づくり運動の内容を、全校で積極的に行うことで、体力の向上や運動への関心が高められるようにする。 □食育の授業を通して、自らの健康な生活のために必要な食事について主体的に考え、実践するような学習を設定する。 □食育の日常化を通して、日々主体的に自分の食事を見つめ考える機会を設定する。 □学校保健委員会では、年間を通して計画的、継続的に全校で課題に取り組み、自らの健康で安全な生活について考える場面を設定する。</td> </tr> <tr> <th>下半期</th> <td></td> </tr> </table>	上半期	□児童の実態を捉えて、適切な支援の方法(資料・段階に応じた場)を模索し、自身の学びをふり返り、自己の成長を感じられるようにする。 □体づくり運動の内容を、全校で積極的に行うことで、体力の向上や運動への関心が高められるようにする。 □食育の授業を通して、自らの健康な生活のために必要な食事について主体的に考え、実践するような学習を設定する。 □食育の日常化を通して、日々主体的に自分の食事を見つめ考える機会を設定する。 □学校保健委員会では、年間を通して計画的、継続的に全校で課題に取り組み、自らの健康で安全な生活について考える場面を設定する。	下半期	
上半期	□児童の実態を捉えて、適切な支援の方法(資料・段階に応じた場)を模索し、自身の学びをふり返り、自己の成長を感じられるようにする。 □体づくり運動の内容を、全校で積極的に行うことで、体力の向上や運動への関心が高められるようにする。 □食育の授業を通して、自らの健康な生活のために必要な食事について主体的に考え、実践するような学習を設定する。 □食育の日常化を通して、日々主体的に自分の食事を見つめ考える機会を設定する。 □学校保健委員会では、年間を通して計画的、継続的に全校で課題に取り組み、自らの健康で安全な生活について考える場面を設定する。			
下半期				